



帰国生の学校選び A to Z

●第20回●

大多数の学校で課される帰国生入試の面接対策とは？

いよいよ受験シーズン到来です。帰国生中学・高校入試もこれから本格化します。入試科目は中学入試では国語と算数、高校入試では英語、国語、数学が多いですが、中には理科や社会を課す学校もあります。そして、ほとんどの学校で面接を課します。

面接は学科試験では測れない受験生の資質を見るために実施されます。個人面接が多いのですがグループ面接もあります。後者では他の受験生に負けないように発言することが必要であるとともに他の受験生の意見を聞くことも大切です。また、日本語のみでなく英語の面接を行う学校もあります。

質問内容は学校や面接官によって様々です。長所や短所、趣味や家族などのプロフィール、海外での生活の様子（暮らした街や学校のことなど）も聞かれますが、最も重要なのは志望理由です。この学校を選んだ理由、入学後に何をしたいか、卒業後にはどんな進路などを質問されます。帰国生にありがちなのは、海外で培った英語力を伸ばして将来は英語に関わる仕事に就きたいという回答です。ただし、このままではよくありません。どんなカリキュラムや行事が英語力を伸ばすのに役立つのかを具体的に挙げる必要がありますし、英語に関わる仕事も職種や業種を明示したほうがよいでしょう。そして、将来の進路のために入学後にがんばって勉強するんだという決意が感じられることが重要なのです。また、勉強だけではなく、部活動や生徒会活動などにも積極的に参加する意欲を見せるとよいでしょう。

このように面接で好印象を与える発言をするためには、受験校のカリキュラムや学校生活（行事や部活動など）の情報を十分に把握しておく必要があります。そういう意味で面接対策は、学校選びの段階から始まっていると言えます。



執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所アドバイザー／名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujeec.org Phone & Fax 855-926-1140(文京学院) E-mail nihs@ujeec.org Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)